



## レオナルド・ダ・ヴィンチ天才の肖像

東京都美術館 2013年4月23日～6月30日 5/22記

今回の展覧会は、17世紀初頭にフェデリコ・ボッロメオ枢機卿によって創設されたイタリア・ミラノの「アンブロジーナ図書館・絵画館」からの来日。枢機卿はレオナルド作品他、優れた作品の劣化消失を防ぐため、模写させて後世の手本として残しました。最初リラの演奏家としてミラノに入ったレオナルドは科学的才能を発揮し、建築・軍事・農耕器具設計に携わりました。彼はミケランジェロに出会って彫刻に興味を示しましたが、当時は材料が軍事に回されて彫刻に挑めませんでした。「複式簿記の父」『ユークリッド原論』著者でフランチェスコ修道士の数学者ルカ・パチョーリ(Luca Pacioli)と出会い、彼の幾何学から遠近法の多くを学び、師と崇めた彼の『神聖比例論』(=黄金比論)に、骨格による立体把握可能な挿絵を描きました。レオナルド自筆蔵書目録は鏡文字。現存自筆資料はウインザー手稿とアンブロジーナ手稿。絵画の多くは壮大な構想ゆえに殆ど未完成で、彼の考案手法を受け継いだルーニエ他、本展登場の画家たちに引き継がれました。



LEONARDO DA VINCI (1452.4.15～1519.5.2)が唯一描いた男性肖像画『音楽家の肖像』モデルはレオナルドと一緒にミラノに入ったアタランテ・ミリオロッティという説が有力です。